



小 出 の 宝 光 院

る。この寺には応挙筆と伝えるゆうれいの見事な掛軸なども蔵してある。

この宝光院境内の西南隅に目通り三・九二メートルもあるもみの御神木ともみられる古木があり、小塚が築かれ、上に明応元年（一四九二）の荒井入道稲葉神と伝える塔が建てられてある。富田淡路守頼祐の次男富田左享亮祐道が討死、嫡男荒井因幡守が亡父のため、この小出の地に一寺を建立して、入道、宝光院境内に埋むといわれて、荒井因幡守道信の為の施餓鬼供養が、昭和十六年四月十二日、下荒井の旧肝煎、荒井幸三、同鎌之進親子によって行なわれたことがある。この御神木にのろい針などがみえるのは古い迷信の名残を窺わせる。

現在の宝光院は弘化三年（一八四六）

再建されたものであるが、富士神社に寄るが、廿三夜供養塔などが、境内にたくさんたっている。せ宮が多いのと似て、安永・寛政・文化・文政頃の巳待供養塔、廿三夜供養塔などが、境内にたくさんたっている。

2、蟹川渡し 上流の馬越辺から峡谷を離れた大川は、大きな扇状地をつくって放流するが、大川に流路を固定させた



小出宝光院の大日如来